



# INDONESIA MISSION



発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 TEL：0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」

HP：<https://indonesiamission.info/>



YPPII&ATI神学校スタッフと寮の  
舎監がスルートウンバワンのさらに  
奥地、グンジュマ村を訪問

インドネシア・カリマンタン宣教のために、お祈りとご支援をありがとうございます。

このニュースレターは春に発行予定でしたが、コロナ感染も含めて私の諸事情によりすっかり遅れてしまいました。ニュース発行には編集会議から始まり、編集、発送作業までチームで行っていますが、今回はメンバーをずいぶん待たせる事になり申し訳なかったです。しかし、励まし支え合いながらチームでインドネシアミッションの働きを継続できる事を改めて感謝されています。

コロナで制限されていた海外との行き来もだいぶ緩和されてきました。各地の宣教師たちにも動きがあります。私にとって、以前は「ちょっとそこまで」という感覚のインドネシアでしたが、2年間のブランクで少し遠くなったようです。近い将来、現地での再会が果たせますように。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ



KBIの玄関にて

## スルートウンバワン地域 バダット・ラマ村より

スイン兄

グロリア寮2出身で、現在ジャワ島の大学で修士の学びをしているスイン兄に出身のバダット・ラマ村を紹介してもらいました。今後エンティコンの大学(分校)で教師になる予定です。また地域から村長候補としても期待されています。

シャローム！バダット・ラマ村はマレーシアとの国境に隣接した位置にあり、最前線とも最後尾とも言える孤立した村です。バダット・ラマ村からエンティコンまでは、小舟で丸一日もしくはバイクで6時間(雨だと1日)かかります。バダット・ラマ村の人々は、農業で生活しています。収穫は少なく、村でやっと生活できる程度です。収穫の少なさが経済面に直結していて、村に住む人たちは食費と教育費に関する悩みが非常に大きいです。現に今でも、学費が払えず学校を止める子どもが沢山います。村の人々はまだまだ貧しい暮らしです。1か月や2か月お金が全然ない事もしばしばです。教育も大変遅れています。多くの教師は都会から遠く離れた僻地で教えたくないから長期休暇に入るとなかなか帰ってきません。

霊的面については、人々はまだ超自然の力を信じており、病気などの時には魔術師の所へ行く人がまだまだ多いです。バダット・ラマ村の人々が教育・霊的・経済の現状から立ち上がっていきけるようどうぞお祈りください。



バダットラマ村の風景



ジャワ島のキャンパスにて

### カリマンタン島西部地図



## ブンカヤン・ベラカ寮 舎監ギデオン師より

2006年のベラカ寮設立以来、初めての改修工事でしたが、今回男女それぞれの台所を新設しました。今まで台所は板の小屋で、木がだいぶ腐ってきていましたが、ずいぶんきれいに出来上がりました。屋根や梁などの経年劣化部分の改修工事もほぼ終わりに近づいていて、ここまで守られて感謝です。日本よりの奨学生だったスサン、ジャミラ、ウルン、サビナは今年高校卒業です。卒業後大学進学を願っている子どももいますが、経済的になかなか願い通りにはならないようです。ベラカ寮からの祈りの課題は以下の通りです。お祈りのご支援をありがとうございます。

1. 最近断水が多くて水不足です。水がスムーズに流れるように。
2. 私(ギデオン)の健康のために。他の寮の手続きのため、長距離運転しますが最近疲れやすく体調を崩しやすいです。
3. コロナも落ち着いてきたので村々へ寮の紹介に回る予定です。新学期新入生が寮に入ってくるように。



綺麗になったキッチン



修繕したベラカ寮



ギデオン師の長女ハニエーの洗礼式(洗礼着中央)

## スルートウンバワン地域 グンジュマ村保育園の働き 代表 高橋めぐみ



右側がネリ姉



保育園の様子

グンジュマ村はスルートウンバワン村からバイクで2時間ほどです。ニュースレター前号で紹介した通り、ネリ姉が自分の村でかねてより重荷をもっていたボルネオ保育園を信仰をもって再開しました。その後事態は大きく前進し、1月にはこの保育園の責任団体となるYPPII西カリマンタン支部より訪問があり(表紙の写真がその時のものです)、6月21日に正式な開所式を行う事になりました。大学卒業したのネリにとって大きなチャレンジばかりで、涙顔のSNSスタンプが送られてきます。「大丈夫あなたには能力があるよ。これこれの人たちに訊いたりお願いしたらいいよ」とアドバイスしています。送られてきている祈りの課題は以下の通りです。どうぞお祈りをお願いいたします。

- 1, ネリと一緒に教える人材が与えられるように。一緒に働いていたジュリアンティは6月いっぱいまで辞めることになりました。
- 2, 子ども達の教科書、教材のために。その他メディア関係やホワイトボードなど様々な備品が必要です。
- 3, 政府から認可が下りるように。
- 4, 7月から新学期が始まります。6月に開所式をし、正式なスタートとなります。
- 5, 保育園の建物のために。今は村の公民館を借りています。
- 6, YPPII西カリマンタン支部の訪問と協力関係のために。



## エンティコン・グロリア寮 I の近況 インドネシア・アミッション委員 東聖士



右側が増設した水路



水路から斜面へ流す部分

昨年春に起こった寮と公道をつなぐ通路横の地滑りについてですが、まず工事完了していないにもかかわらず、10月～3月の雨季を乗り越えられたことを、心から感謝しています。

工事は、コロナ感染拡大によって大工が集まらなかったり、仕事を中止しなければいけなかったりと、思うように進みませんでした。しかし、ようやく終盤を迎えまることが出来て、一安心です。工事に関しては、日本から提案した案を元に、舎監デルフィのご主人リコさんが所属する宣教団体のメンバーが計画し、地元の大工さんを手配して進められました。具体的な工事内容は、もともとあった水路に加え、斜面側にも水路を設け、水路から斜面へ排水する場所も増設しました。

ただ、スコールは雨粒が大きい上に、雨量が多く、一晩続くこともあります。スコールが水路へ与えるダメージは大きいです。完成後、水路が壊れず機能し続けることが出来るかを心配しています。どうぞ壊れることなく継続して水路が役目を果たせるようにお祈りください。

# － 祈りのリクエスト －

## ATI神学校

- ◎神学校スタッフと学生たちの守りと祝福のために。
- ◎キリスト教教育コースの許可が政府から下りるように。  
(グロリア寮2舎監のヘルマヌスも教師として活動中)
- ◎ATIスタッフ、学生によるオンラインデボーションが祝福されるように。(YouTubeで毎日配信)

## 3つの学生寮共通

- ◎3つの寮の舎監達に知恵が与えられるように。  
寮生たちの霊的指導のために。
- ◎宣教団体のYPPH西カリマンタン支部と良いコミュニケーションを取りながらともに宣教の働きを進めていけるように。
- ◎寮出身者たちの働き(看護師、小学校教師、大学教師、保育所の働き、村長、村の長老《礼拝を導きます》、など)を通して奥地スングン地域のアニミズム信仰が根底から変えられていくように。

## エンティコン・グロリア寮Ⅰ

- ◎公道から寮へ向かう通路(私道、約100m)の、地崩れ対策の排水溝工事は終わりました。  
今後大雨の際に排水溝がうまく機能するように。  
(一部の急斜面に植生ネットの追加設置も考えています)

グロリア寮Ⅱ中学生の様子(QRコードで視聴可能です)



夜の祈り

特別賛美



賛美の練習



寮での作業

## スルートゥンバワン・グロリア寮Ⅱ

- ◎グロリア寮Ⅱは3つの寮の中で一番改修工事が必要ですが、政府との移転問題交渉が進んでいないので、本格的な工事に取り掛かれません。進展があるように。

- ◎グロリア寮Ⅱの祈祷会の様子がYouTubeで見れます。  
子ども達は地域の為に、3つの寮のために祈っています。  
[ブンカヤン・ベラカ寮](#)

- ◎グロリア寮Ⅱ(中学生)から高校進学のためにベラカ寮に入寮してきた子どもたちの為に。新しい場所での適応と経済的必要が満たされるように。

## 奨学生

- ◎ジャワ島で修士課程に進学しているスインのために。
- ◎バダットラマ村に診療所を開設する夢をもって前進しているドノの健康と学びのために。
- ◎アンジュンガンの宣教師館で高校生のヤコブス、アンドリカ、テシー、インドラ(グロリア寮Ⅱ出身)の学びと霊性のために。彼らの進路のために。大学進学を希望しています。

## プニティ・アナスタシス教会

- ◎大雨が降るたび、会堂が床上浸水になるため、現在床の底上げ工事を行っています。必要な費用が満たされるように。この工事が効果ある結果をもたらすことができるように。

- ◎フレンキー牧師一家の守りと祝福のために。

## 未伝●族への働き

- ◎ミッションハウスは出来上がりました。感謝。●族のために大いに用いられるように。
- ◎タヨナ氏の毎週火曜日の断食祈祷会の祝福のために。今後超教派の●族祈祷チームを作っていきたいと願っています。
- ◎ハリジョ氏。バイク移動図書館での子どもたちへの伝道のために。また●族出身のハリジョ師の親族の救いのために。◎祈りの課題に拳がっている人たちの救いのために。

## その他

- ◎現地と良いコミュニケーションをとって、互いによく祈り合っていけるように。
- ◎インドネシアミッションの働きのための宣教師が導かれるように。

## 胡椒奨学金プロジェクト

八尾福音教会・曙チャペル  
伊藤勝利

コロナ禍のため休止していました「胡椒プロジェクト」を今年のJEC春期聖会から再開しました。聖会当日だけでも80口程の献金があり、本当に感謝しています。

「胡椒プロジェクト」とは、インドネシアの子ども達の奨学金献金(一口1000円)を呼びかけ、献げて下さった方に返礼品として、西カリマンタンの白胡椒50gをお渡ししている活動です。経済的な理由で進級することをあきらめなければならない子ども達を何とか支援したいとの思いからスタートしました。

現在、3名の子ども達をサポートしています。これからも、一人でも多くの子ども達に学びのチャンスを届けたいと願っています。コロナ禍でも、子どもたちの奨学金は継続して必要になります。

引き続きのお祈りとご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

胡椒奨学金プロジェクトに関するお問い合わせは、以下にご連絡ください。

八尾福音教会 曙チャペル  
伊藤勝利(インドネシアミッション胡椒プロジェクト担当)  
アドレス:akebono@jec-net.org



私は、前回まで連載された安海宣教師の長女として育ちました。2歳～中学3年生までインドネシアで育ち、高校受験で帰国し、東京基督教大学で主人と出会いました。現在は、埼玉県の浦和福音教会で、22年間牧師夫人として奉仕しています。物心が付いた時から既にインドネシアにいた私は、自然にそこが自分の居場所だと思っていました。近くのジャングルでの木登りやターザンごっこ、川泳ぎ、オランウータンやスローリスなどの幾つもの小動物を飼って共に遊ぶことを満喫していたのです。

楽しい日常で唯一嫌だったのは、普段使うことが少なかった日本語で、ほとんど知らない母国に帰国した時のためにと言い聞かされながら、半強制的に(その時の私にはそう思えた)させられる勉強でした。将来に備えたい両親の思いを知るはずもなく、高い木の上に逃げ、下から届かない棒で何とか降りさせようとする母との攻防…お互いにイライラをつのらせ、言い争う声は外の動物たちに負けていなかったかと思うほど。そして、一人静かに涙して祈っている母の後ろ姿を目撃しては、母を悲しませて自分が悲しくなったものでした。その中で、私たち家族にとって神様の助けと思えたのは、時々日本から来てくれた大学生や社会人のお兄さんお姉さん達の存在でした。勉強を見てくれ、一緒に遊んでくれる日本語を話す人は、とても新鮮で、自分が日本人であることをなんとなく思い起させてくれたのでした。

幼少期の遊び(ボートに乗って)



小学5年の時、ポンティアナックという町に引っ越しました。これまで自分をインドネシア人と同じように思い、日本人ということで好奇の目で見られることにも慣れてはいたはずなのに、その視線を苦しく思うようになりました。その町は、かつて日本軍が多くの人々を捕らえ、虐殺した所だったので、教会の信徒の方々の中にも親や親戚を殺された人がいたのです。現地の学校に通い始めたことも重なり、否応なく自分が日本人であることを認識するようになりました。憎しみの目を向けられ、嫌みを言われることに苦しみながら、一方で、愛する親や肉親を目の前で殺されたらそうしたくなるだろう思いも理解できるので、いたたまれない思いになりました。

新たな宣教地で日々忙しくしている両親に心配をかけまいとする思いと、苦しんでいる自分の気持ちに気づいてもらえない悲しみを抱え、ついに心がおかしくなるのを感じました。同じ教職者の子供をいじめ、教会内の偽善的な大人の偽善を暴くべく嫌がらせをすることによって、自分の苛立ちを発散させるようになったのです。

良い子を装いながら、ひどいことをしている自分こそが偽善者だと気づいても、自分でどうにもならないことに耐え兼ね、ついに神様の前に、「こんな罪深い私を赦して、良い人に変えて下さい」と何日も泣きながら願い続けました。

時と共に、少しずつ神様に赦されていることを実感できるようになった頃、ある人が父に「かつて日本軍は私たちに死をもたらしましたが、今、先生家族が神様の平和をもって私たちの所に来てくださったことをすごく感謝しています。」と言っているのを耳にしました。自分が受け入れられ、喜ばれ、赦されている事の喜びに涙があふれました。神様に罪を赦されたことと、人に赦してもらえたことがこんなにも嬉しいなんて…そして、神様の力なしには、その方々が私たちを赦せることはないことを確信した時、私の生涯を神様のために用いていただきたいと、献身の思いが芽生えたのです。当時、父の幾つかの働きの一つに、ATI神学校を建てることがありました。好奇心旺盛な私は、そのための土地探しに何回かついていきました。色々な土地についての説明を聞きながら、そこに建つであろう神学校をあれこれ思い描いて空想することが楽しかったのです。

シンタンの宣教師館での家族(右端が直子師)



現在、神学校がある土地を見た時、ジャングルの小道が緩やかな上り坂になっていて、果物の木があちらこちらに生えて、乾季でも水が枯渇しないという水源からの小川があり、裏山にはドリアンの木が沢山ある(落ちた果物は拾った人のものという暗黙のルールがあった)というその土地にワクワクしたのを覚えています。そして、約10年後に、教育宣教師として大田宣教師の子供たちと共に、そのドリアンを取りに行く事が実現することに。宣教地ならではの楽しい経験と、神様の御業を目の当たりにできたことが私の信仰を育み、同時に、どこでも特別視されるために自分の居場所がない不安定さと、新しい環境に必死で適応しなければならない辛さに疲れ果てた経験を経て、主により頼み、助けていただくことを覚えました。現在、仕えている教会に外国と関わりのある方々が半数程いるのは、その喜びや痛みを共にするという神様のご計画だったのだと実感しています。

一緒にドリアン取りへ

